

# 新潟市早期景気観測調査

～平成29年8月分～

～目次～

8月調査の概要と概況	・・・P1
売上等項目別評価と業種別DI値	・・・P2
業界から寄せられた主なコメント	・・・P3
本調査方法と調査内容	・・・P4

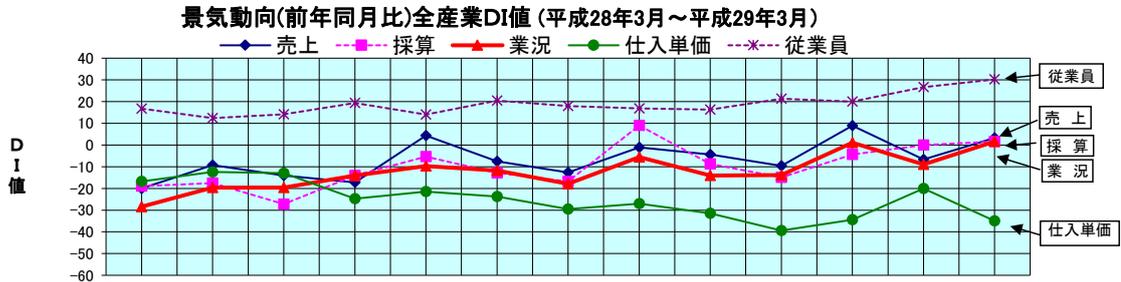
新潟商工会議所

# 1. 8月調査の概要と概況

**【8月の概要】**

**業況はやや改善傾向、先行きは依然慎重な見通し**

7月に比べると、売上D Iと業況D Iは、マイナスからプラスに転じ、採算D Iもやや改善したが、仕入単価D Iのマイナス幅は増加している。全体的には業況はやや改善傾向を示したが、サービス業や製造業からも個人消費が低迷しているとの声が聞かれ、仕入コストの増加も懸念され、改善の動きは弱い。先行きについては、7月に比べ、採算D Iはマイナスからプラスに転じているが、売上D I、業況D Iともプラス幅が減少し、仕入単価D Iもマイナス幅が増加している。従業員D Iのプラス幅はやや減少した。景況改善の力強さを欠き、一進一退の状況が続いており、先行きは依然として慎重な見通し。



	H28年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	H29年 8月
売上	▲ 20.0	▲ 9.3	▲ 14.1	▲ 17.2	4.3	▲ 7.5	▲ 12.6	▲ 1.1	▲ 4.4	▲ 9.6	8.9	▲ 6.7	3.2
採算	▲ 19.0	▲ 17.5	▲ 27.2	▲ 14.0	▲ 5.4	▲ 12.9	▲ 16.8	9.0	▲ 8.7	▲ 14.9	▲ 4.4	0.0	1.6
業況	▲ 28.4	▲ 19.6	▲ 19.6	▲ 14.0	▲ 9.7	▲ 11.8	▲ 17.9	▲ 5.6	▲ 14.1	▲ 13.8	1.1	▲ 8.9	1.6
仕入単価	▲ 16.8	▲ 12.4	▲ 13.0	▲ 24.7	▲ 21.5	▲ 23.7	▲ 29.5	▲ 27.0	▲ 31.5	▲ 39.4	▲ 34.4	▲ 20.0	▲ 34.9
従業員	16.8	12.4	14.1	19.4	14.0	20.4	17.9	16.9	16.3	21.3	20.0	26.7	30.2

DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

## 1. 調査概況報告

### 【全産業平均DI】

売上D Iはプラス3.2ポイント、業況D Iはプラス1.6ポイントと、マイナスからプラスに転じた。採算D Iは0.0から1.6ポイントプラスとなった。仕入単価D Iは14.9ポイントマイナス幅が増加した。従業員D Iは3.5ポイントプラス幅が増加した。

### 全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
7月	12.2	▲ 2.2	▲ 20.0	30.0	1.1
8月	7.9	3.2	▲ 23.8	27.0	0.0

先行きは、採算D Iはマイナスからプラス3.2ポイントに転じた。売上D Iは4.3ポイント、従業員D Iは3.0ポイント、業況D Iは1.1ポイント、それぞれプラス幅が減少した。仕入単価D Iは3.8ポイント従業員D Iは3.5ポイントプラス幅が増加した。

### 【業種別DI】

建設業は前年同月比で7月に比べ、仕入単価D Iで5.4ポイントマイナス幅が増加したものの、採算D Iは32.6ポイント、従業員D Iで17.2ポイントとそれぞれプラス幅が増加した。売上D Iと業況D Iは共に0ポイントから共にプラス23.1ポイントとなった。先行きは、売上D Iで0.4ポイントプラス幅が減少したものの、採算D Iは19.0ポイント、従業員D Iは13.1ポイント、業況D Iは17.2ポイントとそれぞれプラス幅が増加した。仕入単価D Iは2.3ポイントマイナス幅が減少した。

製造業は前年同月比で7月に比べ、仕入単価D Iで11.3ポイントマイナス幅が増加したものの、売上D Iはマイナスポイントからマイナス8.3ポイントに転じ、従業員D Iは3.3ポイントプラス幅が増加し、採算D Iは9.4ポイントマイナス幅が減少した。業況D Iはマイナス17.4から0となった。先行きは売上D Iで0.4ポイント、従業員D Iで1.1ポイントとそれぞれプラス幅が減少したものの、採算D Iは0.7ポイント、仕入単価D Iは9.4ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。業況D Iはマイナス8.7から0ポイントとなった。

卸売業は前年同月比で7月に比べ、売上D Iで9.8ポイント、採算D Iで1.0ポイント、仕入単価D Iで54.8ポイント、業況D Iで3.1ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。従業員D Iはプラス26.7ポイントから0となった。先行きは売上D Iが0ポイントからプラス7.7ポイントになったものの、採算D Iはプラスポイントからマイナス15.4ポイント、従業員D Iはマイナス7.7ポイント、業況D Iはマイナス15.4ポイントとそれぞれプラス幅が増加した。仕入単価D Iは26.2ポイントマイナス幅が増加した。

小売業は前年同月比で7月に比べ、業況D Iで23.8ポイントマイナス幅が減少したものの、売上D Iで19.0ポイント、採算D Iで85.7ポイント、仕入単価D Iで4.7ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。従業員D Iはプラス28.6ポイントから0となった。先行きは採算D Iで9.6ポイントマイナス幅が減少し、小売業でマイナス14.3ポイントから0となったものの、仕入単価D Iは19.0ポイント、業況D Iは4.7ポイントとそれぞれマイナス幅が増加し、従業員D Iはプラス28.6ポイントから0となった。

サービス業は前年同月比で7月に比べ、売上D Iで2.0ポイント、従業員D Iで16.2ポイントとそれぞれプラス幅が増加したものの、採算D Iで15.9ポイント、業況D Iで1.6ポイントとそれぞれプラス幅が減少し、仕入単価D Iも4.8ポイントマイナス幅が増加した。先行きは採算D Iで6.5ポイント、従業員D Iで3.6ポイントとそれぞれプラス幅が増加したものの、売上D Iはプラス21.4ポイントから0となり、業況D Iも同じくプラス10.7ポイントから0となった。仕入単価D Iは0.3ポイントマイナス幅が増加した。

## 2. 売上等項目別評価と業種別DI値

### 【項目別評価】

#### ＜売上＞

売上DIの前年同月比は、卸売業が9.8ポイント、小売業が19.0ポイントとそれぞれマイナス幅が増加したものの、製造業はマイナスポイントからプラス8.3ポイントに転じ、建設業は0ポイントからプラス23.1ポイントとなり、サービス業も2.0ポイントプラス幅が増加した。

先行きについては、卸売業が0ポイントからプラス7.7ポイントとなり、小売業はマイナス14.3ポイントから0となった。建設業と製造業は共に0.4ポイントプラス幅が減少し、サービス業はプラス21.4ポイントから0となった。

#### ＜採算＞

採算DIの前年同月比は、建設業が32.6ポイントプラス幅が増加し、製造業で9.4ポイントマイナス幅が減少したものの、卸売業は1.0ポイント、小売業は85.7ポイントとそれぞれマイナス幅が増加し、サービス業は15.9ポイントプラス幅が減少した。

先行きについては、卸売業でプラスポイントからマイナス15.4ポイントに転じたものの、建設業は19.0ポイント、サービス業は6.5ポイントとそれぞれプラス幅が増加し、製造業は0.7ポイント、小売業は9.6ポイントとそれぞれマイナス幅が減少した。

#### ＜仕入単価＞

仕入単価DIの前年同月比は、建設業で5.4ポイント、製造業で11.3ポイント、卸売業で54.8ポイント、小売業で4.7ポイント、サービス業で4.8ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。

先行きについては、建設業で2.3ポイント、製造業で9.4ポイントとそれぞれマイナス幅が減少したものの、卸売業で26.2ポイント、小売業で19.0ポイント、サービス業で0.3ポイントとそれぞれマイナス幅が増加した。

#### ＜従業員＞

従業員DIの前年同月比は、卸売業がプラス26.7ポイント、小売業がプラス28.6ポイントとそれぞれプラスポイントから0となったものの、建設業で17.2ポイント、製造業で3.3ポイント、サービス業で16.2ポイントとそれぞれプラス幅が増加した。

先行きについては、建設業で13.1ポイント、サービス業で3.6ポイントプラス幅が増加したものの、製造業は1.1ポイントプラス幅が減少し、卸売業はプラスポイントからマイナス7.7ポイントに転じた。小売業もプラス28.6ポイントから0となった。

#### ＜業況＞

業況DIの前年同月比は、製造業でマイナスからプラス14.3ポイントに転じ、卸売業で10.2ポイントマイナス幅が減少したものの、小売業は15.8ポイント、サービス業で1.7ポイントとそれぞれマイナス幅が拡大し、建設業は0からマイナス15.8となった。

先行きについては、建設業でプラス14.3ポイントから0となり、製造業で0からマイナス19.1ポイントになったものの、卸売業は0.4ポイント、サービス業は3.3ポイントとそれぞれマイナス幅が減少し、小売業はマイナス14.3ポイントから0となった。

### 【参考】全産業平均DI-向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
7月	12.2	▲ 2.2	▲ 20.0	30.0	1.1
8月	7.9	3.2	▲ 23.8	27.0	0.0

## 2. 業種別DI値

①: 前年同月比    ②: 向こう3か月間の先行き見通し

### (1) 建設業

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
7月	0.0	23.5	5.9	11.8	▲ 17.7	▲ 17.7	5.9	17.7	0.0	5.9
8月	23.1	23.1	38.5	30.8	▲ 23.1	▲ 15.4	23.1	30.8	23.1	23.1

### (2) 製造業

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
7月	▲ 21.7	8.7	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 30.4	▲ 26.1	21.7	26.1	▲ 17.4	▲ 8.7
8月	8.3	8.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 16.7	25.0	25.0	0.0	0.0

### (3) 卸売業

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
7月	▲ 13.3	0.0	▲ 6.7	6.7	▲ 6.7	▲ 20.0	26.7	20.0	▲ 20.0	6.7
8月	▲ 23.1	7.7	▲ 7.7	▲ 15.4	▲ 61.5	▲ 46.2	0.0	▲ 7.7	▲ 23.1	▲ 15.4

### (4) 小売業

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
7月	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 42.9	▲ 28.6	▲ 14.3	28.6	28.6	▲ 57.1	▲ 28.6
8月	▲ 33.3	0.0	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3

### (5) サービス業

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
7月	7.1	21.4	25.0	7.1	▲ 17.9	▲ 17.9	42.9	46.4	10.7	10.7
8月	9.1	0.0	9.1	13.6	▲ 22.7	▲ 18.2	59.1	50.0	9.1	0.0

### 3. 業界から寄せられた主なコメント

平成29年8月

建設業	<p>塗 装 工 事：地元は仕事量が少ないが市外地の仕事に恵まれている。</p> <p>総 合 建 設：県内においては、公共工事、民間設備投資共に低迷していると思われる。</p>
製造業	<p>食 品：消費全体が低迷気味で、売上増加につながらない。</p> <p>機 械 部 品：2014年以降、輸出先の中心となる中国からの受注が不振であったが、昨年10月から受注回復。現在フル操業が続いている。</p>
卸売業	<p>機 械 部 品：顧客の設備投資意欲がありこの数か月はプラスに推移する見込みではあるが、その先は不透明である。</p> <p>青 果：初夏の低温等により農作物（主として枝豆）の不作により、売り上げが減少した。</p>
小売業	<p>日用品・家具：毎年、数人の新卒を採用しているが、過剰感が出てきた。</p>
サービス業	<p>タ ク シ ー：景気の回復が感じられず、個人消費にいまいち力がないが、猛暑のため利用回数は上昇傾向にある。</p> <p>駐 車 場：業況は古町地域では、区役所の移転もあり好転が見込まれるが、他地域での競争が厳しくなる。</p> <p>運 輸：体的に雑貨関係が好調であるが、人件費と運送諸経費の単価が上がっている。長距離路線ドライバーの不足が深刻。</p>

## 4. 本調査方法と調査内容

### 業種別調査対象数

業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合計
調査対象数(件)	61	61	60	50	69	301
回答数(件)	13	12	13	3	22	63
回収率(%)	21.3	19.7	21.7	6.0	31.9	20.9

### 調査方法

新潟市内にある当所の会員企業・団体等の中から、建設・製造・卸・小売・サービスの5業種について、予め調査への協力をお願いした301ヶ所の調査対象に対し、毎月15日前後に調査票をインターネットまたはファクシミリ送信し、25日前後までに寄せられた回答を集計し、その結果をDI値で表します。

### 質問内容

売上・採算・仕入単価・従業員・業況について、今月の動向が前年同月と比較してどのように変化しているかということと、今後3ヶ月の見通しについて、今月と比較してどのように考えるかということを探っています。

### DIとは

DI(DIFFUSION INDEX)値:景況判断指数

売上・採算・業況などの各項目についての、調査対象の判断の状況を表す指数です。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を示す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。つまり、売上高など実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを含みます。

### DIの計算方法

DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

売上	(増加)の回答%-(減少)の回答%
採算	(好転)の回答%-(悪化)の回答%
仕入単価	(下落)の回答%-(上昇)の回答%
従業員	(不足)の回答%-(過剰)の回答%
業況	(好転)の回答%-(悪化)の回答%